

全国高等学校長協会全国大会

本日から、23日まで、平成31年度全国高等学校長協会第72回総会・研究協議会が、大宮ソニックシティで開催されます。

今年の大きな課題は、なんといっても新制度入試に関する情報であります。

また、新制度への移行を含めて、今年度の三年生に対する様々な対応が大きな話題でもあります。

新制度の大きな特徴として、英語の資格試験の導入があげられますが、現二年生ばかりではなく、現三年生の全員に対しても、11月に共通IDの申し込みが始まります。三年生は、もしも浪人することとなれば、令和2年度当初から、資格試験を受験することになります。ので、そのための対応として、共通IDの確保が必要なのです。

ちなみに、昨年度の会議では、アクティブ・ラーニングを用いた授業の実践と、調査書の電子化に向けた考え方という話し合いが行われたところです。

新制度入試については、入試の仕方が変化すると共に、調査書が今の様式から電子化され、A31枚から制限なしに変わります。

つまり、高校時代の実践報告として、自分が携わった様々な活動をすべて提出できるようになります。そのために、資料の収集と電子化する準備が必要なのです。

このこと以外にも、現在のオンタイムの状況をすぐさま発信していきますので、生徒の皆さんや保護者の皆さんには、その情報を上手に取捨選択しながら、今後の進路選択に生かしてほしいと願います。

さらには、今後の磐城高校の大きな課題として、中高一貫した学習プログラムの必要性があげられます。つまり、併設した中学校を持つべきかどうかを含めて、とりあえずは、中高一貫した学習プログラムを構築する必要性があると強く感じております。

そのプログラムに従って、既存の中学校との連携もできるでしょうし、市の教育委員会との連携もできていく道筋もあると考えます。

今後のいわきの子供達を、全国の子供達にどう競わせていくのかを含め、大きな課題であると考えています。

時代に対抗して変えるべきところと、堅持する部分・独自の部分を見定めて、時代が移り変わっても変えないところをよく見定めていきたいと心から思っています。